今月の窓

信頼，改革，貢献，そして情熱，共感，感動

第23回 JA 全国大会が，この10月10日盛大に開催されたが，今回ほど世間から注目されることになった本大会はこれまでなかったように思う。すなわち，食品の偽装表示問題発生等により食に対する消費者の信頼が大きく揺らぎ，米政策改革大綱にもとづき米の生産・流通の仕組みが再編されるとともに，JAのあり方についての内外からの厳しい批判等を背景に，JAがいかに再生していくのかが問われていたものである。今，JA組織の必要性，存在意義自体が問われているといっても過言ではあるまい。

今大会は「新しい時代に対応し，未来を切り開く『実践する大会』，『開かれた大会』を目指し」て，信頼，改革，貢献の三つの基本姿勢と，安全・安心な農産物の提供と地域農業の振興，組合員の負託に応える経済事業改革，経営の健全性・高度化への取組強化，協同活動の強化による組織基盤の拡充と地域の活性，の四つの重点実施事項等が決議された。「農業・農村に国民の理解と応援を」得ていくための方策が打ち出されたわけであるが，要は，この大会決議が全国の各JA，各連合会で，すみやかに実践に移され，実効を重ねていくことが求められており，絵に描いた餅で終わらせることはもはや許されない状況にある。

話は一転するが，NHKの「プロジェクトX」をご覧になったことのある方も多いことであろう。日本の成長・発展を支えてきた「プロジェクトに人生を捧げた」男たちが成功を勝ち取るまでの苦闘を追ったドキュメンタリーである。地味な番組ではあるが，この種の番組としては異例の高い視聴率を維持しているらしい。すでに，たくさんのプロジェクトが取り上げられてきたわけであるが，本番組のプロデューサーは，これまでの番組制作を振り返って，「日本人は，どんな会社も，どんな地域も，必ず未来に向かったいろんなテーマを持って，戦後の数十年間を生きてきたはず」であり，「人材というのは，全国どこにでもいる，どこの地域にも，どこの会社にも眠っている，住んでいるというのが，日本社会の強さ」である。「プロジェクト，その会社にとって一番大事なことは何かと言いますと，部下を成功させることに尽きるんですネ。会社が強くなるというのは，若い人，それから部下の人たちを成功させようとして，上司が尽くすことなんです。」そして「日本の社会，日本の企業に蔓延した悪しきものというのは，成果主義」である，と語っている。筆者なりに整理してみれば，成功を獲得するための必要条件は，テーマへの徹底的なこだわりと，部下たちのために何ができるかを常に問う上司の思いやりと見識にある。そしてその核にあるものこそ，無私の情熱であり，感動する心なのだ，ということになる。

「右手に夢，左手にソロバンを」とは，熊本の若手農業経営者・木之内均氏の言葉であるが，協同組合運動ではロマンはまして重要とされよう。運動に対する情熱と現場への共感と感動こそが，協同組合精神の真髄なのではないだろうか。JA改革という“プロジェクト”を成功させていくためには，左手のJA全国大会決議と合わせて，右手に情熱，共感，感動をしっかりと握り締めていくことが不可欠である。まずは，それぞれが自らの思いを，深く問い返すところからJA改革を始めようではないか。

((株)農林中金総合研究所常務取締役 蔦谷栄一・つたやえいいち)